

芙蓉館日記

嘉永二年

四十九

服部文庫
イ 17
2322
49



417
2322
49

嘉永二己酉歲

坐右日

正月元日ヨリ

服部文庫
417
2546
50

正月大

元

年

日吉正月の雨電

一 雨電の如く一向穢婦と云ふ是は穢婦例の如く是は穢婦の如く

之人は穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

一 例の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

其穢婦の如く是は穢婦の如く是は穢婦の如く

一人人... 七回... 日向... 品...

九年 寅 晴...

一... 多... 作... 別... 今... 以... 乃... 使...

一... 右... 了...

一... 十... 十... 十...

一... 十... 十... 十...

如... 今... 右... 事... 午... 晴... 入... 四... 日...

十二日

一人... 晴... 申... 申... 晴... 西... 水... 麻... 布... 丁... 大... 夫... 去... 日... 也...

十三日

一人... 晴... 申... 申... 晴... 西... 水... 麻... 布... 丁... 大... 夫... 去... 日... 也...

申

晴西水麻布丁大夫去日也

一人... 晴... 申... 申... 晴... 西... 水... 麻... 布... 丁... 大... 夫... 去... 日... 也...

西

晴西水麻布丁大夫去日也

一人... 晴... 申... 申... 晴... 西... 水... 麻... 布... 丁... 大... 夫... 去... 日... 也...

西

晴西水麻布丁大夫去日也

晴西水麻布丁大夫去日也

外此意... 申
○金之文

一積古例... 申
○收貯度

一積古例... 申
○收貯度

人々... 申
○金之文

一積古例... 申
○收貯度

一積古例... 申
○金之文

一積古例... 申
○收貯度

日暮りては... 辰

○今更

一、新讀例... 辰

一、新讀例... 辰

一、新讀例... 辰

一、新讀例... 辰

一、新讀例... 辰

○今更

一、新讀例... 辰

一 種古例之通友之友人... 申

一 種古例之通友之友人... 酉

一 種古例之通友之友人... 戌

一 種古例之通友之友人... 亥

一 種古例之通友之友人... 子

一 種古例之通友之友人... 丑

一 種古例之通友之友人... 寅

一 種古例之通友之友人... 卯

一 種古例之通友之友人... 辰

一 種古例之通友之友人... 巳

一 種古例之通友之友人... 午

一 種古例之通友之友人... 未

一 種古例之通友之友人... 申

一 種古例之通友之友人... 酉

一 種古例之通友之友人... 戌

一 種古例之通友之友人... 亥

清秋お休す... 卯

一 善佳休... 辰

一 種多休... 巳

一 種多休... 午

一 種多休... 未

八〇 種多休... 申

一 種多休... 酉

一 種多休... 戌

一 種多休... 亥

一 種多休... 子

早

辰

午

巳

酉

未

申

申

申

以何事之〇... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

十二、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

一、秘多... 凡人... 徳... 財...

壬子月十日

辰 大馬

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

〇余之友

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子
中馬痛馬通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

〇余之友

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

一積古例より通之より人々を以て通之冷痛よりなり冷〇積古之積茶子

陽七の事... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

日月大

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

一積古例... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

〇小者若... 〇小者若... 〇小者若... 〇小者若...

○色納... 子... 辰

○種... 子... 辰

○種... 子... 辰

○種... 子... 辰

○種... 子... 辰

○種... 子... 辰

○種... 子... 辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

あふもてしは... 〇大虎... 眠之信... 吐後... 後子... 中五

一之... 今... 中... 中五

一今... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

〇大虎... 眠之信... 吐後... 後子... 中五

一之... 今... 中... 中五

一今... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

一之... 中... 中五

ありては本々之根拠之ありは於此にありしなり是等之徒は

○今之世の如くは古より一の法を以てして其を執る者多し

○其の人ハエリ一進路ハ一人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

○其の如きは是ハ法理に於て其ノ人ハ之ヲ執ル事アリヤト云フ

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

一人如表長... 子
... 子
... 子

叶修書り及書之まの往來を尾代及中野村に於て是れ中野村に於ては傷の事多し
其の進退あり又まの往來あり故に新設の事あり○此の事は中野村に於ては傷の事多し
右の事の時其の往來あり其の事は中野村に於ては傷の事多し
今川村に於ては傷の事多し
○此の事は中野村に於ては傷の事多し

一 新設例の事は休む人より新設例の事は休む人より
○此の事は中野村に於ては傷の事多し
○此の事は中野村に於ては傷の事多し

一 新設例の事は休む人より新設例の事は休む人より
○此の事は中野村に於ては傷の事多し
○此の事は中野村に於ては傷の事多し

一 新設例の事は休む人より新設例の事は休む人より
○此の事は中野村に於ては傷の事多し
○此の事は中野村に於ては傷の事多し

一 新設例の事は休む人より新設例の事は休む人より
○此の事は中野村に於ては傷の事多し
○此の事は中野村に於ては傷の事多し

三
一
二

月大
申
申

申
申

申

西

申

成

申

一 種古例... 人足痛... 杖... 墨

二 種古例... 子... 墨

三 種古例... 墨

七 種古例... 墨

一 種古例... 墨

一 種古例... 墨

一 種古例... 墨

一 種古例... 墨

一 種古例... 墨

一 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

二 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

三 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

四 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

五 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

六 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

七 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

八 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

九 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十一 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十二 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

一 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

二 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

三 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

四 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

五 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

六 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

七 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

八 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

九 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十一 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

十二 新例 爲休之入可於... 爲休之入可於...

つりて居るは... 右外... 申

申

一 積古例... 友... 申

十七

○ 積古例

一 積古例... 申

○ 積古例

一 積古例... 申

申

一 積古例... 申

申

一 積古例... 申

申

一 積古例... 申

申

一 積古例... 申

○ 積古例

一 積古例... 申

○ 積古例

一 積古例... 申

○ 積古例

一 積古例... 申

○ 積古例

一 積古例... 申

申

申

申

只建之口神... 辰

戌

一 種吉例... 辰

五

一 種吉例... 辰

二

一 種吉例... 辰

七

一 種吉例... 辰

十

一 種吉例... 辰

十

一 種吉例... 辰

十

一 種吉例... 辰

十

一 種吉例... 辰

十

十

辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

辰

一 種古例 是也 人 居 後 人 居 前 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有

廿二日 申 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

廿二日 申 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

廿二日 申 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

若小海西尾廣助 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

廿二日 申 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

廿七日 酉 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

一 種古例 是也 人 居 正 人 居 左 之 例 也 〇 居 正 人 居 左 有 吐水 〇 居 正 人 居 左 有 吐水

今日之細存少壯之體在三人之老後彼何人若房之既燒又今日之休其燒將
存以復氣入海是片身也切身已三十三木ノ子二切之有子三人路下五子
現存外學事

丑 時於大光

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

寅 時

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

卯 時 星之民以少、故大光 ○修終友

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

十七日

辰 時

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

巳 時

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

午 時 電大、院

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

未 時 時於大光

一 種古例之友人予人子於修終令其物之天不與修之故多修物之友
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也
一 種以少者者產物令其力附其物之故付少物賜以修者其之也

抄中毎日月二回... 右外... 母事

一人... 母事... 母事

一人... 母事... 母事

二十九日

庚

一人... 母事... 母事

母事

正

母事

一人... 母事... 母事

少后居廣
（正居時）
書在往處

和聖成命
和生子兼治
以長陸公
井上陽成
和生

和生人
米元 和生八
和生 和生
和生 和生

和生

新編
御成吉思汗
御成吉思汗
御成吉思汗

